

伝統芸能にうっとり

3/31 宗吉瓦窯跡史跡公園



第10回宗吉史跡まつりが開催されました。市内外の陶芸クラブによる焼き物の展示販売や植木鉢の絵付け体験など、たくさんの方で賑わいました。夕方からは、メインイベントの宗吉史跡能「西王母」が上演され、観客は幽玄の世界に引き込まれていました。

消防車が寄贈されました

2月20日、一般社団法人日本損害保険協会から、地域における消防力の強化・拡充を目的として、離島での災害の際に利用するため、軽消防自動車が1台寄贈されました。

この消防車は粟島に配備し、火災の際には積載している消防用可搬ポンプで消火作業を行うほか、水害時や訓練時に幅広く使用します。



春の陽気の中で鉦おどり

4/6~7 財田町戸川ダム公園周辺



財田町が生んだ偉人・大久保謙之丞をたたえて、毎年、観桜シーズンに開催される謙之丞まつりでは、ステージショーや野外バーベキューで大いに盛り上がりました。オープニングでは、地元の和光中学校の生徒と鉦おどり保存会のメンバーによる鉦おどりが披露されました。

桜満開！約2,000本の桜が咲き誇る名所

4/7 朝日山森林公園



2,000本の満開の桜が咲き誇る朝日山森林公園で桜まつりが開催されました。芝スキーやボート乗り場では、子どもたちの元気な歓声が響き、たくさんの家族連れがお花見を楽しみました。テント村では、高瀬茶やたけのこの天ぷらなど、食を楽しむことができました。

人工知能の活用に向けた広域自治体協議会が発足

4/2 財田庁舎

自治体に共通する課題に対し、人工知能(AI)を活用した解決方法を協議・検討する広域自治体等人工知能活用推進協議会が発足しました。財田庁舎で行われた設立総会には、三豊市を含む中・西讃の首長が出席し、AIを活用した住民の利便性向上や行政運営の効率化に向けて、協力・連携することを確認しました。また、本市のAI拠点として設置する東京大学大学院松尾研究室とよサテライトの愛称をMAiZM(マイズム)とすることを山下市長が発表しました。「三豊」「松尾教授」の頭文字のMと、関わるすべてのヒトとコトのAからZまでをAIにより解決していきたいとの思いが込められています。今後は、参加自治体と松尾教授の意見交換や課題収集のための企業訪問などを行う予定としています。



▲県内4市3町の首長が連携を確認しました(左から)片岡琴平町長、栗田まんのう町長、丸尾多度津町長、山下市長、白川観音寺市長、梶丸亀市長、平岡善通寺市長



◀設立総会で、山下市長が会長に就任



◀サテライトの愛称は“MAiZM(マイズム)” 連絡先☎23-6120

春の訪れを告げる伝統行事 国指定重要無形民俗文化財“生里のモモテ”

3/10 三宝荒神宮



千年以上前から、地域安寧祈願の弓射行事として行われている生里百々手祭。海水で身を清めた5人の射手は、前方にある扇などの的を射ぬいて地域の安泰を祈り、厄を払います。「けんかモモテ」とも呼ばれるこの行事は、祭りがにぎやかになるほど大漁と豊作になると言われています。当日はあいにくの雨模様でしたが、多くの観客が詰めかけ、活気のあるモモテが行われました。



▲観客席からは、矢が当たれば歓声が上がります



▲的に命中すると、観客席から御花がまかれます

おめでとうございます

におっこ清掃探検隊の防災マップが 全国コンクールでキッズリスクアドバイザー賞を受賞



▲完成した防災マップ ダムで土砂災害から身を守ろう！



▲砂防ダム建設現場を訪れ、ダムの役割などを調査しました



▲1月に東京都で開催された表彰式

仁尾児童館の「におっこ清掃探検隊」が制作した防災マップが、一般社団法人日本損害保険協会主催「第15回小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」で、全国2,865作品の中からキッズリスクアドバイザー賞に選ばれました。

今回は、土砂災害をテーマにし、県西讃土木事務所協力のもと、仁尾町の砂防ダムを見学して、防災マップづくりに取り組みました。マップには、仁尾町内にある13カ所の砂防ダムの位置や土砂災害の警戒区域、避難所が示されており、地域の土砂災害の危険性が一目で分かる点などが評価されました。

みとよHOT NEWS

デイリー版ほっとニュースは 市ホームページで「三豊市」検索